

令和4年度版

かながわの学びの充実・改善のために

令和4年度全国学力・学習状況調査
神奈川県公立小・中学校調査結果の分析・活用資料



児童・生徒の皆さんへ

県教育委員会では、全国学力・学習状況調査の結果を受けて、小・中学生の「自分の考えを表現するチカラ」をもっと伸ばしたいと考えています。

児童・生徒の皆さんへの提案です。一日一行、文章を書く習慣を身に付けましょう。県教育委員会では、【365一行日記】のフォーマットをホームページに掲載しています。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakujo/shichousonkekka.html>

教職員の皆さんへ

各学校で行っている、児童・生徒の実態をきめ細かく把握する取組は、様々な場面での指導に生かされ、小・中学校9年間で一貫した指導のポイントを共有することにつながっています。

今後も、あらゆる場面で、一人ひとりのよい点や可能性に目を向け積極的に伝えるなど、児童・生徒の自己肯定感をはぐくむ取組を進めていきましょう。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakujo/shichousonkekka.html>

令和4年11月
神奈川県教育委員会

*本資料に掲載した数値については、基本的に
政令市を含めた全県のデータとしている。

本資料作成の趣旨

全国学力・学習状況調査の目的のひとつに、

**学校が、本調査結果を活用することで、日ごろの教育活動の成果や課題を把握し、
その充実と改善を図ること**

とあります。

各学校においては、自校の結果を調査対象の学年や教科だけではなく、全教職員で共有し、学校全体で教育活動の充実・改善のために活用することが大切です。

そこで、県教育委員会では、各学校において本調査結果を効果的に活用できるよう、県内公立小・中学校の結果を総合的に分析し、全県の傾向を踏まえ、**「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」**として整理しました。

さらに、重点事項の各項目を踏まえた県内公立小・中学校の取組の好事例を取材し、**「学びの充実・改善のヒント」**としてとりまとめました。

市町村教育委員会及び学校においては、児童・生徒にとっての豊かな学びを実現するために、本調査結果を有効に活用し、教育活動の質のさらなる向上に取り組むようお願いします。

本資料の構成

I 教科に関する調査の結果	．．．．．	P. 4
II 質問紙調査の主な結果	．．．．．	P. 19
III かながわの学びの充実・改善のための重点事項	．．．．．	P. 29
IV 学びの充実・改善のヒント	．．．．．	P. 31
<参考情報>	．．．．．	P. 39

本資料の活用にあたって

次に示した各章の【活用例】を参考にしながら、各学校の実情に応じて本資料をご活用ください。

I 教科に関する調査の結果

小学校の国語・算数・理科と、中学校の国語・数学・理科の教科に関する調査の結果について、全県の傾向、強み・課題といえる主な設問を取り上げ、示しています。

- 【活用例】・校内の教科部会において、自校の調査結果を分析
・小・中学校合同の研修において、一緒に結果を分析 など

II 質問紙調査の主な結果

児童・生徒質問紙調査や、学校質問紙調査の結果について、全県の傾向を4つの項目にまとめて示しています。


また、ICTに関する設問及び新型コロナウイルス感染症に関する設問を取り上げ、全県の傾向を参考として示しています。

- 1 児童・生徒の意欲を高めることに関して
 - 2 自分の考えを表現する学習活動に関して
 - 3 校内研修に関して
 - 4 小・中学校9年間を見通した教育活動に関して
- 参考1 ICTを活用した学習状況に関して
参考2 新型コロナウイルス感染症の影響に関して

- 【活用例】・校内研修において、自校の児童・生徒の回答状況を分析
・調査対象以外の学年にも調査を実施し、各学年の傾向を把握 など

III かながわの学びの充実・改善のための重点事項

児童・生徒の学ぶ意欲や自分の考えを言葉で表現する力を高めることが必要と捉えています。そのためには、学校では、すべての教員が授業改善を進めることや、小・中学校9年間を見通した取組を行っていくことが重要と考えています。そうした視点からとりまとめています。

- 1 子どもたちの学びに対する意欲の向上
 - 2 自分の考えを文章等で表現する力の向上
- 
- 3 校内研修の充実
 - 4 小・中一貫教育の推進

IV 学びの充実・改善のヒント

「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」の各項目を踏まえ、「学びの充実・改善のヒント」として取組事例をとりまとめ、示しています。

- 【活用例】・児童・生徒の実態を踏まえた単元の構想
・小・中学校間で連携した授業研究の協議 など

〈参考情報〉

各学校において、児童・生徒にとっての豊かな学びを実現するために、参考となる各種資料を掲載しています。

令和4年度全国学力・学習状況調査の概要

○調査期日 令和4年4月19日（火）

○対象者 小学校第6学年児童、中学校第3学年生徒

○集計学校数、児童・生徒数

- ・参加校 小学校 854校（小学校 844、特別支援学校小学部 6、義務教育学校(前期) 4）
中学校 420校（中学校 406、特別支援学校中学部 8、中等教育学校(前期) 2、
義務教育学校(後期) 4）
- ・参加者 小学校 約7万人、中学校 約6万1千人
【参考】 県域（政令指定都市（横浜市、川崎市、相模原市）を除いた地域）
参加校 小学校 329校（小学校 325、特別支援学校小学部 4）
中学校 180校（中学校 174、特別支援学校中学部 4、中等教育学校(前期) 2）
参加者 小学校 約2万5千人、中学校 約2万3千人

○調査事項

- ・教科に関する調査（小学校：国語、算数、理科 中学校：国語、数学、理科）
- ・学校質問紙調査
各学校を対象とした、指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問
(小学校 105項目、中学校 103項目)
- ・児童・生徒質問紙調査
調査学年の児童・生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問
(小学校 75項目、中学校 75項目)

○留意事項

本調査結果は、児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、また、学校における教育活動の一側面である。

<出典>令和4年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（文部科学省）

I 教科に関する調査の結果

小学校の国語・算数・理科と、中学校の国語・数学・理科の教科に関する調査の結果について、全県の傾向、強み・課題といえる主な設問を取り上げ、示しています。

平均正答数・平均正答率

*県及び地域の平均正答率は、国から小数第1位を四捨五入した整数値で提供された。

令和4年度	小学校調査						中学校調査					
	国語		算数		理科		国語		数学		理科	
	(14問)		(16問)		(17問)		(14問)		(14問)		(21問)	
	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)
全 国	9.2	65.6	10.1	63.2	10.8	63.3	9.7	69.0	7.2	51.4	10.4	49.3
神奈川県	9.1	65	10.2	64	10.8	63	9.7	69	7.4	53	10.5	50
全国との差	-0.1	-0.6	0.1	0.8	0.0	-0.3	0.0	0.0	0.2	1.6	0.1	0.7

<参考> *県域は、政令指定都市（横浜市、川崎市、相模原市）を除いた地域

県 域	8.7	62	9.7	61	10.4	61	9.6	69	7.2	51	10.4	49
全国との差	-0.5	-3.6	-0.4	-2.2	-0.4	-2.3	-0.1	0.0	0.0	-0.4	0.0	-0.3

(文部科学省令和4年度全国学力・学習状況調査の結果をもとに子ども教育支援課が作成)

本県の公立小・中学校の平均正答数・平均正答率は、全教科とも、全国公立学校の平均値と大きな差は見られなかった。

【参考】全国平均正答率(公立)の±10%の範囲内であれば、全国と大きな差は見られなかったと考える。

<出典>令和4年度全国学力・学習状況調査 報告書(文部科学省 国立教育政策研究所)

小学校 国語

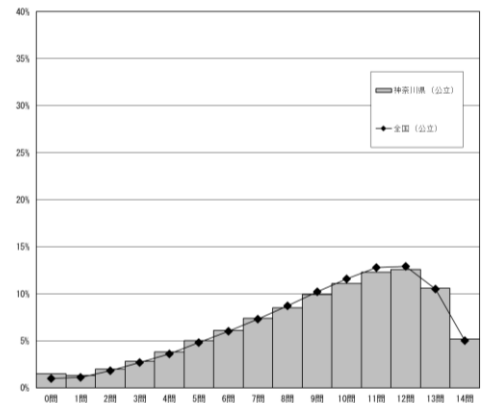
集計結果 分類・区分別

自校のデータを
記入しましょう。

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			県	全国	自校
全体			14	65	65.6
学習 指導 要領	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	65.6	69.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	73.2	77.9
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	2	66.3	66.2
		B 書くこと	2	47.9	48.5
		C 読むこと	4	69.5	66.6
評価の観点	知識・技能	6	66.8	70.5	
	思考・判断・表現	8	63.3	62.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	8	72.9	71.8	
	短答式	3	57.4	63.6	
	記述式	3	50.6	51.3	

正答数分布

	平均正答数	中央値	標準偏差
県	9.1 / 14	10.0	3.4
全国	9.2 / 14	10.0	3.3
自校	/ 14		



国語に関する児童の意識（児童質問紙調査より 肯定的な回答をした児童の割合）

	質問	県	全国	自校
23	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，読書をしますか（教科書や参考書，漫画や雑誌は除く） → 「10分以上」	58.2	59.6	
26	読書は好きですか	71.3	73.1	
49	国語の勉強は好きですか	59.9	59.2	
50	国語の勉強は大切だと思いますか	93.9	93.3	
51	国語の授業の内容はよく分かりますか	85.0	84.0	
52	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.0	91.8	
国 1	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか → 「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」	75.0	78.0	
国 2	解答時間は十分でしたか（国語）	59.1	66.0	

特徴

A 強みといえる設問（平均正答率 80%以上より 2 問）

①話し言葉と書き言葉の違いを理解する

1 一

【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する設問

	正答率
県	86.1%
全国	85.5%
自校	%

②必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える

1 三

【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する設問

	正答率
県	85.8%
全国	84.7%
自校	%

B 課題といえる設問（平均正答率 70%未満より 2 問）

①文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける

3 二

【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く設問

	正答率	無解答率
県	35.5%	17.7%
全国	37.7%	14.5%
自校	%	%

②互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる

1 四

「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、
でどのように話すかを書く設問

	正答率	無解答率
県	46.9%	3.2%
全国	47.7%	3.0%
自校	%	%

振り返ってみましょう！

「国語に関する児童の意識」では、

- ・国語の勉強は大切だと思いますか : 93.9%
- ・国語の授業で学習したことは、将来、
社会に出たときに役に立つと思いますか : 92.0%
- ・国語の勉強は好きですか : 59.9%



「国語の勉強は大切」で、「社会に出たときに役に立つ」と思う児童の割合は高いですが、それと比較すると、「国語の勉強は好き」と回答した児童の割合は低い傾向にあります。

児童が国語の勉強を好きになるために、どのような工夫をしていますか？
 参考として、「学びの充実・改善のヒント」(p.31)をご覧ください。

自分の工夫を
書いてみましょう

私の工夫は・・・

小学校 算数

集計結果

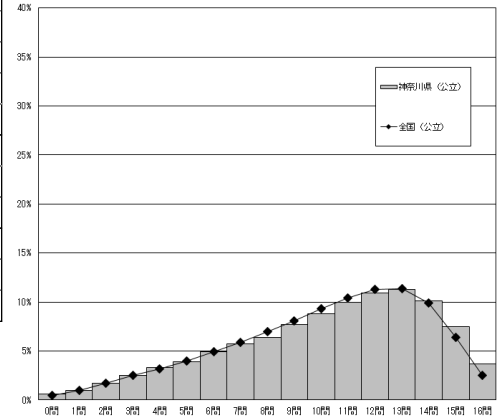
分類・区分別

自校のデータを
記入しましょう。

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			県	全国	自校
全体		16	64	63.2	
学習指導要領 の領域	A 数と計算	6	69.4	69.8	
	B 図形	4	64.9	64.0	
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	53.3	51.3	
	D データの活用	3	69.5	68.7	
評価の観点	知識・技能	9	69.0	68.2	
	思考・判断・表現	7	57.5	56.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	53.9	51.8	
	短答式	6	77.0	76.5	
	記述式	4	59.5	60.2	

正答数分布

	平均正答数	中央値	標準偏差
県	10.2 / 16	11.0	3.7
全国	10.1 / 16	11.0	3.6
自校	/ 16		



算数に関する児童の意識（児童質問紙調査より 肯定的な回答をした児童の割合）

	質問	県	全国	自校
53	算数の勉強は好きですか	63.1	62.5	
54	算数の勉強は大切だと思いますか	94.3	94.2	
55	算数の授業の内容はよく分かりますか	81.1	81.2	
56	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ と思いますか	93.2	93.3	
57	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか 考えますか	70.6	69.3	
58	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろ な方法を考えますか	80.3	80.4	
59	算数の問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えます か	77.5	76.8	
60	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するよう にしていますか	86.5	85.7	
算1	今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方な どを書く問題がありました。それらについてどのように解答しま したか →「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」	81.2	82.8	
算2	解答時間は十分でしたか（算数）	82.6	83.4	

特徴

A 強みといえる設問（平均正答率 80%以上より 2 問）

①被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる

1 (1)

1050 × 4 の計算をする設問

	正答率
県	92.9%
全国	92.4%
自校	%

②図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している

4 (2)

長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く設問

	正答率
県	83.6%
全国	83.2%
自校	%

B 課題といえる設問（平均正答率 70%未満より 2 問）

①示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している

2 (3)

果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ設問

	正答率	無解答率
県	24.2%	1.4%
全国	21.4%	1.1%
自校	%	%

②伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる

2 (4)

果汁が 30%含まれている飲み物に果汁が 180mL 入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く設問

	正答率	無解答率
県	49.2%	5.5%
全国	48.0%	5.5%
自校	%	%

振り返ってみましょう!

「算数に関する児童の意識」では、

- ・算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか : 80.3%
- ・算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか : 86.5%
- ・算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える : 70.6%



あきらめずにいろいろな方法を考えたり、わけを理解したりしようとしている児童の割合と比較すると、普段の生活に活用できないか考えている児童の割合は低い傾向にあります。

児童が算数を普段の生活の中で活用できないか考えることができるよう、どのような工夫をしていますか？

参考として、「学びの充実・改善のヒント」(p.34)をご覧ください。

自分の工夫を書いてみましょう

私の工夫は・・・

小学校 理科

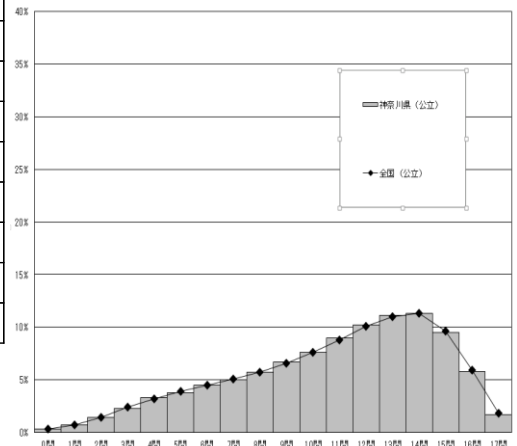
集計結果 分類・区分別

自校のデータを
記入しましょう。

正答数分布

分類	区分	問題数	平均正答率(%)		
			県	全国	自校
全体		17	63	63.3	
学習指導要領 の 区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	51.8	51.6
		「粒子」を柱とする領域	5	59.5	60.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	5	75.6	75.0
		「地球」を柱とする領域	5	64.9	64.6
評価の観点	知識・技能	6	61.8	62.5	
	思考・判断・表現	11	64.2	63.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	11	67.7	66.8	
	短答式	3	64.1	66.2	
	記述式	3	46.5	47.3	

	平均正答数	中央値	標準偏差
県	10.8 / 17	11.0	3.8
全国	10.8 / 17	11.0	3.8
自校	/ 17		



理科に関する児童の意識（児童質問紙調査より 肯定的な回答をした児童の割合）

	質問	県	全国	自校
61	理科の勉強は好きですか	79.7	79.7	
62	理科の勉強は大切だと思いますか	86.0	86.5	
63	理科の授業の内容はよく分かりますか	89.0	88.5	
64	理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	67.6	67.9	
65	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	76.3	77.2	
66	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	27.6	26.6	
67	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	80.0	78.0	
68	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	85.8	84.9	
69	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	72.3	72.2	
理1	今回の理科の問題では、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか →「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」	78.1	80.6	
理2	解答時間は十分でしたか（理科）	91.2	90.8	

特徴

A 強みといえる設問（平均正答率 80%以上より 2 問）

- ①問題を解決するために必要な観察の視点を基に，問題を解決するまでの道筋を構想し，自分の考えをもつことができる

① (1)

見いだされた問題を基に，観察の記録が誰のものであるかを選ぶ設問

	正答率
県	93.6%
全国	92.9%
自校	%

- ②観察で得た結果を，問題の視点で分析して，解釈し，自分の考えをもつことができる

④ (1)

冬の天気と気温の変化を基に，問題に対するまとめを選ぶ設問

	正答率
県	83.4%
全国	82.3%
自校	%

B 課題といえる設問（平均正答率 70%未満より 2 問）

- ①日光は直進することを理解する

③ (1)

光の性質を基に，鏡を操作して，指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ設問

	正答率	無解答率
県	27.3%	0.7%
全国	27.8%	0.6%
自校	%	%

- ②実験で得た結果を，問題の視点で分析して，解釈し，自分の考えをもち，その内容を記述する

③ (4)

問題に対するまとめから，その根拠を実験の結果を基にして書く設問

	正答率	無解答率
県	33.1%	12.6%
全国	35.1%	11.2%
自校	%	%

振り返ってみましょう！

「理科に関する児童の意識」では、

- ・理科の授業で，観察や実験の結果から，
どのようなことが分かったのか考えていますか : 85.8%

「課題といえる設問」では、

- ・問題に対するまとめから，その根拠を実験の結果を基にして
書く設問 : 33.1%



観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている児童の割合と比べて、実験の結果を基にして、根拠を記述する設問の正答率は低い傾向にあります。

児童が観察や実験の結果を基にして、自分の考えを文章等で表現できるよう、どのような工夫をしていますか？

参考として、「学びの充実・改善のヒント」(pp.33-35)をご覧ください。

自分の工夫を
書いてみましょう

私の工夫は・・・

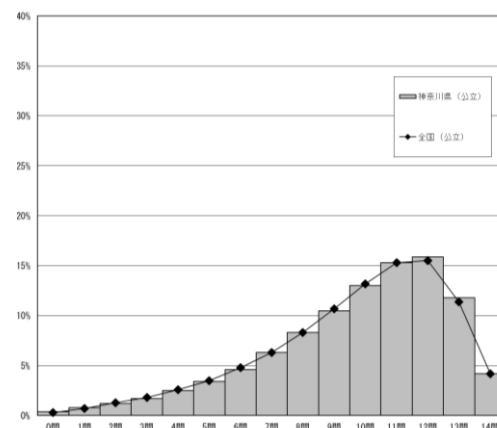
集計結果
分類・区分別

自校のデータを
記入しましょう。

正答数分布

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			県	全国	自校
全体			14	69	69.0
学習 指導 要領	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	72.3	72.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	43.7	46.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	70.5	70.2
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	65.1	63.9
		B 書くこと	1	43.7	46.5
		C 読むこと	2	69.9	67.9
評価の観点	知識・技能	10	68.9	69.0	
	思考・判断・表現	6	63.1	62.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	74.5	73.7	
	短答式	5	70.0	70.3	
	記述式	3	57.7	57.4	

	平均正答数	中央値	標準偏差
県	9.7 / 14	10.0	2.9
全国	9.7 / 14	10.0	2.9
自校	/ 14		



国語に関する生徒の意識（生徒質問紙調査より 肯定的な回答をした生徒の割合）

	質問	県	全国	自校
23	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） → 「10分以上」	42.5	48.6	
26	読書は好きですか	64.1	68.2	
49	国語の勉強は好きですか	64.0	61.9	
50	国語の勉強は大切だと思いますか	93.4	93.2	
51	国語の授業の内容はよく分かりますか	82.9	81.2	
52	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.5	89.7	
国1	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか → 「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」	76.8	77.3	
国2	解答時間は十分でしたか（国語）	85.9	84.9	

特徴

A 強みといえる設問（平均正答率 80%以上より 2 問）

① 助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う

2 一

意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する設問

	正答率
県	82.6%
全国	82.3%
自校	%

② 事象や行為、心情を表す語句について理解する

3 二

「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する設問

	正答率
県	84.7%
全国	84.0%
自校	%

B 課題といえる設問（平均正答率 70%未満より 2 問）

① 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く

2 三

農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える設問

	正答率	無解答率
県	43.7%	8.0%
全国	46.5%	9.0%
自校	%	%

② 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す

1 三

スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く設問

	正答率	無解答率
県	54.1%	14.9%
全国	51.8%	16.2%
自校	%	%

振り返ってみましょう！

「国語に関する生徒の意識」では、

- ・ 国語の勉強は大切だと思いますか : 93.4%
- ・ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか : 90.5%
- ・ 国語の勉強は好きですか : 64.0%



「国語の勉強は大切」で、「社会に出たときに役に立つ」と思う生徒の割合は高いですが、それと比較すると、「国語の勉強は好き」と回答した生徒の割合は低い傾向にあります。

生徒が国語の勉強を好きになるために、どのような工夫をしていますか？
参考として、「学びの充実・改善のヒント」(p.31)をご覧ください。

自分の工夫を
書いてみましょう

私の工夫は・・・

中学校 数学

集計結果

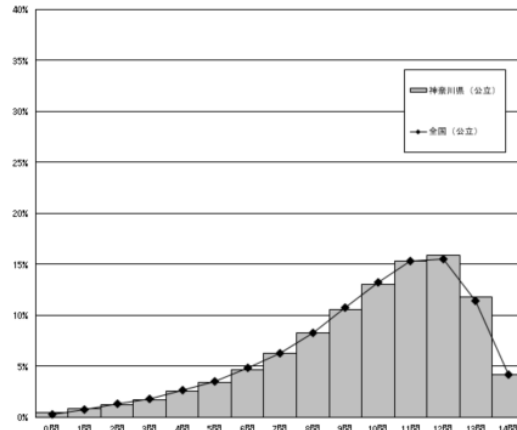
分類・区分別

自校のデータを
記入しましょう。

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			県	全国	自校
全体			53	51.4	
学習指導要領 の領域	A 数と式	5	57.9	57.4	
	B 図形	3	45.6	43.6	
	C 関数	3	46.0	43.6	
	D データの活用	3	57.8	57.1	
評価の観点	知識・技能	9	61.1	59.9	
	思考・判断・表現	5	37.5	36.2	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	54.2	52.6	
	短答式	5	66.7	65.7	
	記述式	5	37.5	36.2	

正答数分布

	平均正答数	中央値	標準偏差
県	9.7 / 14	10.0	2.9
全国	9.7 / 14	10.0	2.9
自校	/ 14		



数学に関する生徒の意識（生徒質問紙調査より 肯定的な回答をした生徒の割合）

	質問	県	全国	自校
53	数学の勉強は好きですか	60.1	58.1	
54	数学の勉強は大切だと思いますか	85.5	86.6	
55	数学の授業の内容はよく分かりますか	78.4	76.2	
56	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ と思いますか	75.7	76.5	
57	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか 考えますか	48.5	47.3	
58	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろ な方法を考えますか	75.4	75.2	
59	数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考 えますか	70.5	70.2	
60	数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するよう にしていますか	79.9	79.6	
数1	今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問 題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか →「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」	51.1	53.4	
数2	解答時間は十分でしたか（数学）	74.3	71.0	

特徴

A 強みといえる設問（平均正答率 80%以上より 1 問）

- ①多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している

5

容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ設問

	正答率
県	84.1%
全国	83.3%
自校	%

B 課題といえる設問（平均正答率 70%未満より 2 問）

- ①結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる

6 (3)

ある偶数との和が 4 の倍数になる数について、予想した事柄を表現する設問

	正答率	無解答率
県	38.7%	25.5%
全国	37.6%	26.2%
自校	%	%

- ②筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる

9 (2)

$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する設問

	正答率	無解答率
県	14.8%	37.9%
全国	12.5%	38.5%
自校	%	%

振り返ってみましょう!

「数学に関する生徒の意識」では、

- ・ 数学の勉強は大切だと思いますか : 85.5%
- ・ 数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか : 79.9%
- ・ 数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えていますか : 48.5%



あきらめずにいろいろな方法を考えたり、わけを理解したりしようとしている生徒の割合と比較すると、普段の生活に活用できないか考えている生徒の割合は低い傾向にあります。

生徒が数学を普段の生活の中で活用できないか考えることができるよう、どのような工夫をしていますか？

参考として、「学びの充実・改善のヒント」(p.34)をご覧ください。

自分の工夫を
書いてみましょう

私の工夫は・・・

中学校 理科

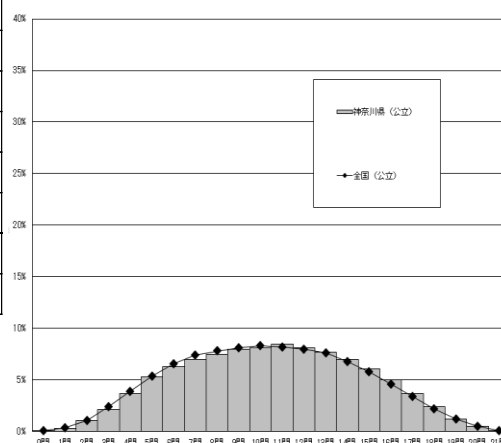
集計結果 分類・区分別

自校のデータを
記入しましょう。

正答数分布

分類	区分	問題数	平均正答率(%)		
			県	全国	自校
全体		21	50	49.3	
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	6	42.4	41.9	
	「粒子」を柱とする領域	5	51.4	50.9	
	「生命」を柱とする領域	5	59.7	57.9	
	「地球」を柱とする領域	6	45.0	44.3	
評価の観点	知識・技能	7	46.5	46.1	
	思考・判断・表現	14	52.0	51.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	15	50.3	49.6	
	短答式	1	25.5	24.8	
	記述式	5	54.8	53.5	

	平均正答数	中央値	標準偏差
県	10.5 / 21	11.0	4.1
全国	10.4 / 21	10.0	4.1
自校	/ 21		



理科に関する生徒の意識（生徒質問紙調査より 肯定的な回答をした生徒の割合）

	質問	県	全国	自校
61	理科の勉強は好きですか	64.2	66.4	
62	理科の勉強は大切だと思いますか	74.5	76.8	
63	理科の授業の内容はよく分かりますか	74.9	75.2	
64	理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	52.7	52.7	
65	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	60.3	61.5	
66	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	22.4	22.1	
67	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	65.7	64.5	
68	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか	81.6	78.9	
69	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	69.0	68.1	
理1	今回の理科の問題では、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか →「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」	72.1	74.0	
理2	解答時間は十分でしたか（理科）	94.2	93.2	

特徴

A 強みといえる設問（参考）

- ①化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表す

3 (1)

分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す設問

	正答率
県	79.1%
全国	80.1%
自校	%

B 課題といえる設問（平均正答率 70%未満より 2 問）

- ①考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善策を表現する

5 (3)

考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する設問

	正答率	無解答率
県	43.4%	29.6%
全国	43.3%	29.4%
自校	%	%

- ②アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する

8 (1)

アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる設問

	正答率	無解答率
県	58.2%	10.8%
全国	55.2%	11.6%
自校	%	%

振り返ってみましょう！

「理科に関する生徒の意識」では、平成 30 年度の調査結果と比べて

- 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか : + 8.0pt (H30 : 73.6%)
- 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか : + 10.6pt (H30 : 58.4%)

「課題といえる設問」では、

- 考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善策を表現する : 43.4%



観察や実験の結果をもとに考察したり、振り返ったりしている生徒の割合は高いですが、実験の計画を検討して改善策を表現する設問の正答率は低い傾向にあります。

生徒が観察や実験の結果を基にして、自分の考えを文章等で表現できるよう、どのような工夫をしていますか？

参考として、「学びの充実・改善のヒント」(pp.33-35)をご覧ください。

自分の工夫を書いてみましょう

私の工夫は・・・

教科に関する調査結果のまとめ

【〇強み】

<p>小学校 国語</p> <p>○「話し言葉と書き言葉の違いを理解する」設問の平均正答率が高い。</p> <p>○「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉える」設問の平均正答率が高い。</p>	<p>中学校 国語</p> <p>○「助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う」設問の平均正答率が高い。</p> <p>○「事象や行為、心情を表す語句について理解する」設問の平均正答率が高い。</p>
<p>小学校 算数</p> <p>○「被乗数に空位のある整数の乗法の計算をする」設問の平均正答率が高い。</p> <p>○「図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解する」設問の平均正答率が高い。</p>	<p>中学校 数学</p> <p>○「多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解する」設問の平均正答率が高い。</p>
<p>小学校 理科</p> <p>○「問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつ」設問の平均正答率が高い。</p> <p>○「観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつ」設問の平均正答率が高い。</p>	<p>中学校 理科</p> <p><参考></p> <p>○「化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表す」設問の平均正答率が高い。</p>

【参考】平均正答率 80%以上：成果として認められる。 平均正答率 70%未満：課題として考えられる。

出典：全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ
(平成24年3月 文部科学省、国立教育政策研究所)

【●課題】

<p>小学校 国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「文章に対する感想や意見を伝え合い、<u>自分の文章のよいところを書く</u>」記述式設問の平均正答率が低い。 ●「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、<u>自分の考えを書く</u>」記述式設問の平均正答率が低い。 	<p>中学校 国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「<u>自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く</u>」記述式設問の平均正答率が低い。 ●「<u>自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す</u>」記述式設問の平均正答率が低い。
<p>小学校 算数</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「数量が変わっても割合は変わらないことを理解する」設問の平均正答率が低い。 ●「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、<u>未知の数量の求め方と答えを記述する</u>」設問の平均正答率が低い。 	<p>中学校 数学</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「<u>結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだし、説明する</u>」記述式設問の平均正答率が低い。 ●「<u>筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する</u>」記述式設問の平均正答率が低い。
<p>小学校 理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「日光は直進することを理解する」設問の平均正答率が低い。 ●「<u>実験で得た結果を、問題の視点で分析して、積し、自分の考えをもち、その内容を記述する</u>」記述式設問の平均正答率が低い。 	<p>中学校 理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「<u>考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善策を表現する</u>」記述式設問の正答率が低い。 ●「<u>アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する</u>」設問の平均正答率が低い。

【参考】平均正答率 80%以上：成果として認められる。 平均正答率 70%未満：課題として考えられる。

出典：全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ
(平成 24 年 3 月 文部科学省、国立教育政策研究所)



小・中学校ともに、「理由を記述する」「考えをまとめる」など、自分の考えを文章等で表現する学習を充実させることが必要。

Ⅱ 質問紙調査の主な結果

児童・生徒質問紙調査や、学校質問紙調査の結果について、全県の傾向を4つの項目にまとめて示しています。

また、ICTに関する設問及び新型コロナウイルス感染症に関する設問を取り上げ、全県の傾向を参考として示しています。

1 児童・生徒の意欲を高めることに関して

【学校質問紙】（肯定的な回答を選択した学校の割合）

	質問	小学校	中学校	自校
10	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童・生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか	97.9	97.6	

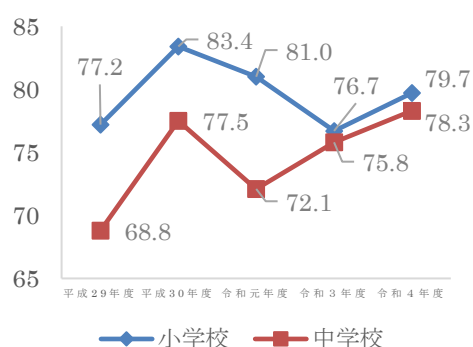
【児童・生徒質問紙】（肯定的な回答をした児童・生徒の割合）

	質問	小学校	中学校	自校
7	自分には、よいところがあると思いますか	79.7	78.3	
8	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	85.7	85.7	
10	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	86.1	84.6	

経年変化を見ると・・・

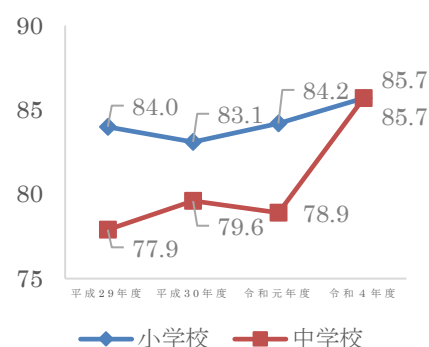
児童・生徒質問紙7

自分には、よいところがあると思いますか



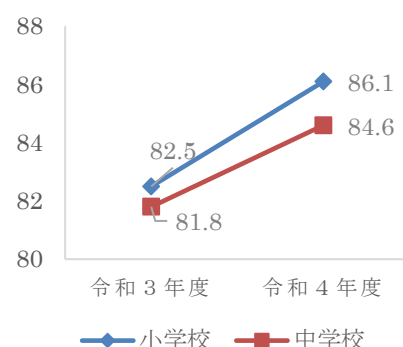
児童・生徒質問紙8

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



児童・生徒質問紙10

自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか



- 小・中学校ともに、児童・生徒一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、評価する取組を積極的に行っている。
- 「先生は、自分のよいところを認めてくれている」と思っている児童・生徒の割合が向上している。

学校は、今後も、児童・生徒が自分のよいところを実感できるよう取り組み、児童・生徒一人ひとりを認め、自己肯定感を高めることで、意欲の向上につなげることが大切。

ここに注目!

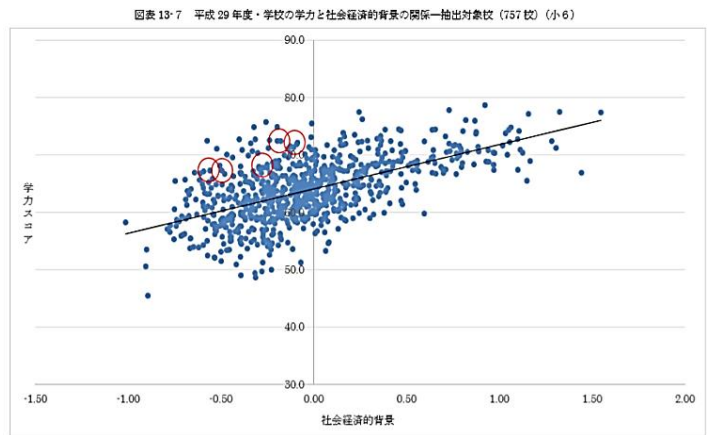
【平成 30 年度詳細分析資料より再掲】

調査結果活用の着眼点 効果のある学校の取組より

平成 29 年度保護者に対する調査の結果と学力等との関係の専門的な分析に関する調査研究

(お茶の水女子大学)

この調査研究によると、子どもの家庭背景に起因する学力の不平等が、統計的に予測される程度に比べて小さい、あるいは予測値よりも上回っている学校(効果のある学校)(右図)において、共通してみられる取組の一つに、各学校での全国学力・学習状況調査の結果の活用が挙げられています。(下図)



<平成29年度調査で特徴的に見られた点>

高い効果を上げている学校が、共通して実施している効果的な取組

- 家庭学習習慣の定着と家庭への啓発, 一人も見逃さない個別指導
(例:放課後や休休みなどに個別に呼んで手厚きめ細やかに指導。)
- 若手とベテランが学び合う同僚性と学校の組織的な取組
(例:面倒見の良いベテラン教師と学年を組む。初任者や若手教師の研修機会を生かして全校教師が学び合う。)
- 小中一貫教育による一貫した学習の構え
(例:小中で家庭学習の方法, 学習ルールや授業スタイルを統一。話し合いや書く力, 読書習慣・言語指導の重点を共有。)
- 言語活動や学習規律などを重視した授業改善の推進
(例:子供の名前を出しながら授業研究を行う。考えを伝え合うための支援や場の工夫。)
- 地域や保護者との良好な関係を基盤とした積極的な地域との連携
(例:地域の一員として、防災活動に取り組む。自治体でキャリア教育を推進。地域人材リストの作成。)
- 学力調査の分析・活用による児童生徒一人ひとりの学力形成
(例:一人一人の子供の学習状況に着目。前年の学習定着の課題を教師で共有, 授業改善に活用する。)

学力状況調査結果とその分析については、教育委員会の主導により、各学校で調査結果の分析や課題を明確にし、授業改善の重点項目としたり、学校だよりやホームページ等で公表して、地域や保護者に説明したりする等の取り組みも多く見られた。前回調査と同様、学校の平均点等の結果には振り回されず、課題を見出すことに活用しているが、それは、平成 25 年報告で挙げた、学校ごとの課題や弱点に応じて対策を講じることよりは、一人一人の子供の学習状況に着目したり、前の年の学習定着の課題を教師で共有したり授業改善に生かしたりする姿勢が見られた。また、質問紙調査の結果についての注目はこの学校でも高く、学校評価や課題改善に取り入れる様子が多く見られ、特に「楽しく学校に通っている」「先生たちはよく話を聞いてくれる」等の学校への満足度や、「自分にはいいところがある」といった自尊感情等について着目し数値目標を掲げている学校もあった。(後略～)

同研究 p.131 第 14 章 高い成果を上げている学校 事例研究より 抜粋

調査結果の活用における着眼点

- 学校の平均正答率とともに、一人ひとりの児童・生徒の学習状況に着目する。
- 学習定着の課題を教職員全員で共有する。
- 児童・生徒質問紙や学校質問紙に着目し、学力を総合的に捉える。

2 自分の考えを表現する学習活動に関して

【学校質問紙】（肯定的な回答を選択した学校の割合）

	質問	小学校	中学校	自校
24	調査対象学年の児童・生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	73.8	85.7	

【児童・生徒質問紙】（肯定的な回答をした生徒の割合）

	質問	小学校	中学校	自校
38	前学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	67.6	70.7	

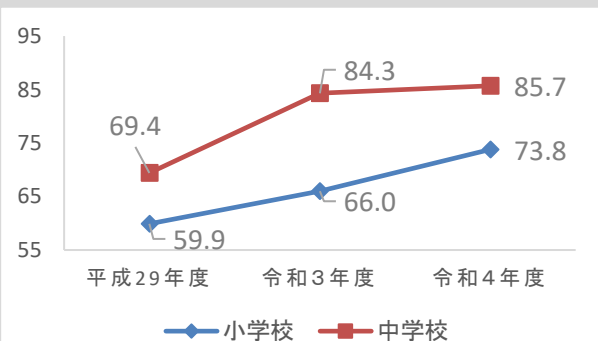
【教科調査問題】（児童・生徒の正答率）

	問題	小学校	中学校	自校
国語	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける	35.5		
算数	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる	49.2		
理科	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善策を表現する		43.4	

経年変化を見ると・・・

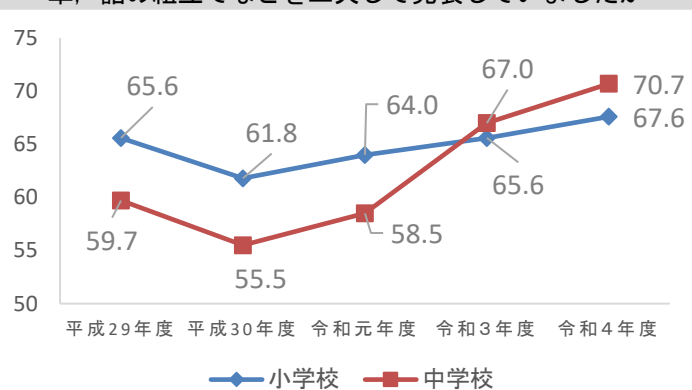
学校質問紙 24

調査対象学年の児童・生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか



児童・生徒質問紙 38

前学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



- 理由を発言したり、自分の考えを発表したりする授業や言語活動は、年々工夫されている。
- 自分の考えを文章等で表現することに課題が見られる。

理由を記述する、考えをまとめるなど、自分の考えを文章等で表現する学習を充実させていくことが必要。

ここに注目!

〔児童・生徒質問紙〕「あなたの家には、およそどれくらい本がありますか」

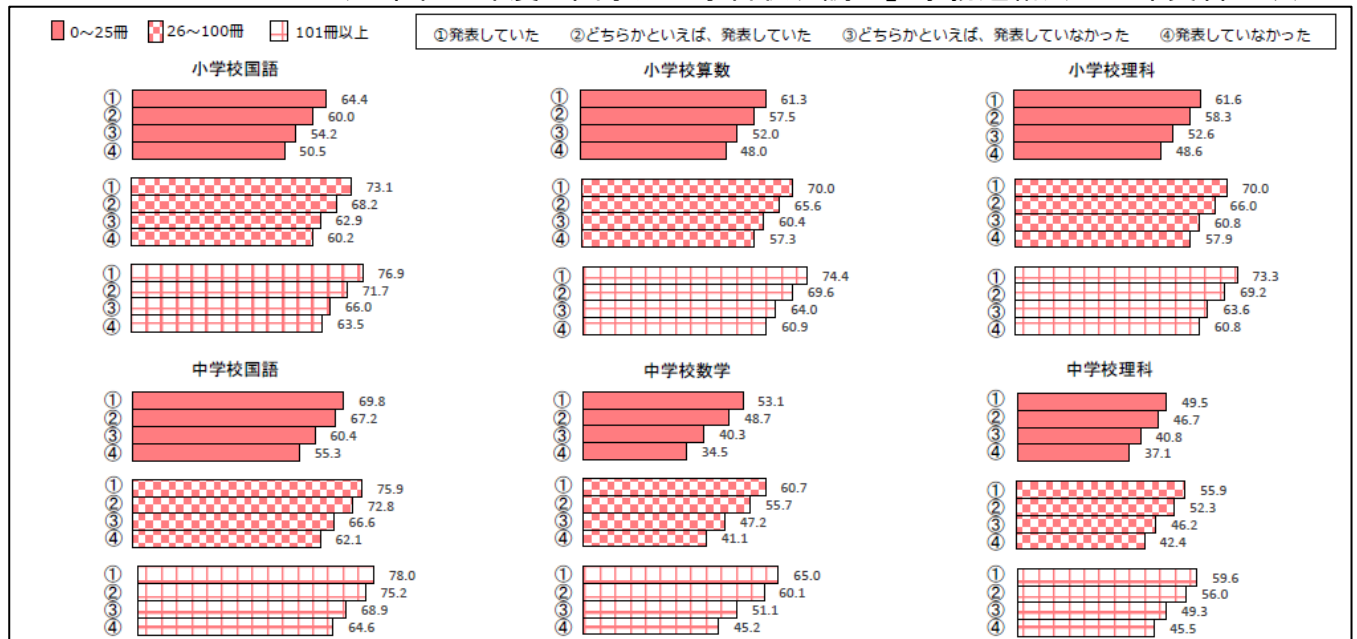
〔児童・生徒質問紙〕「前学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」

〔教科調査問題〕の正答率

※3つの質問・問題をクロス集計

「家にある本の冊数」が少ない（家庭の社会的経済的背景（SES）が低い）ほど各教科の平均正答率が低い傾向にあります。また、「家にある本の冊数」が少ない層においても、授業で、自分の考えを発表する機会に、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しているほど、各教科の平均正答率が高い傾向にあることを国は示しています。

（「令和4年度全国学力・学習状況調査」事務連絡会 配布資料より）

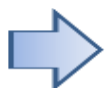


「『令和4年度全国学力・学習状況調査』事務連絡会」配布資料 p. 15

ここにも注目!!

言語能力を育成するために、読書活動を充実させることが重要です。

読書活動を充実させるには、学校図書館を充実させ、学習活動で学校図書館を適切に利用することが必要です。児童・生徒は、読書を通じて、多くの語彙や多様な表現を学び、新たな知識を獲得したり、新たな考え方に出合ったりします。



「国語に関する児童の意識調査」(p. 5)
「国語に関する生徒の意識調査」(p. 11)



■かながわ読書のススメ「取組事例ガイドブック」



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/gt2/torikumijireiguidebook.html>

3 校内研修に関して

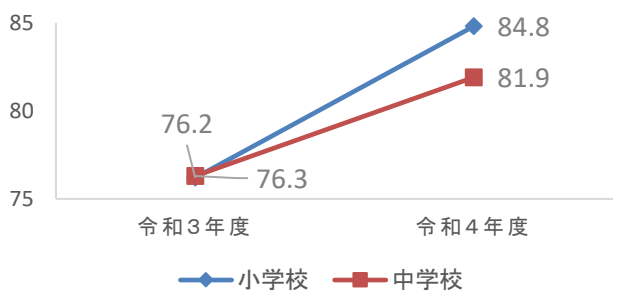
【学校質問紙】（肯定的な回答を選択した学校の割合）

	質問	小学校	中学校	自校
17	児童・生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	85.0	85.8	
19	授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	95.9	86.2	
38	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしましたか	86.0	90.0	
小80 中78	令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	84.8	81.9	

経年変化を見ると・・・

学校質問紙小80中78

前回の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。



- 小・中学校ともに、授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている。また、学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう組織的かつ計画的な取組を行っている。
- 小・中学校ともに、本調査結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するための活用が進みつつある。

校内研修を児童・生徒の資質・能力の育成及び評価の観点から一層充実させることが大切。

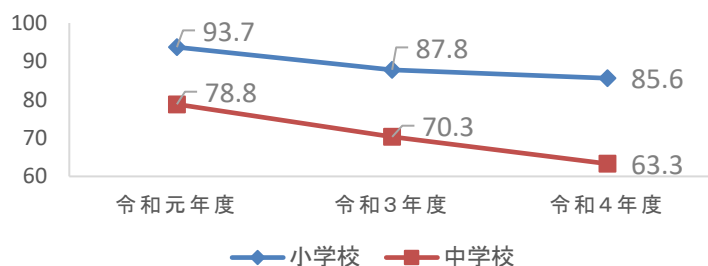
ここに注目！

コロナ禍の影響があるとは思いますが、学校外の資源を効果的に組み合わせた教育活動が減少傾向にあります。

保護者や地域の方も含めた外部の資源を有効に活用した実践事例を校内研修で共有するなど、取組の充実を図っていきましょう。

学校質問紙18

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか



4 小・中学校9年間を見通した教育活動に関して

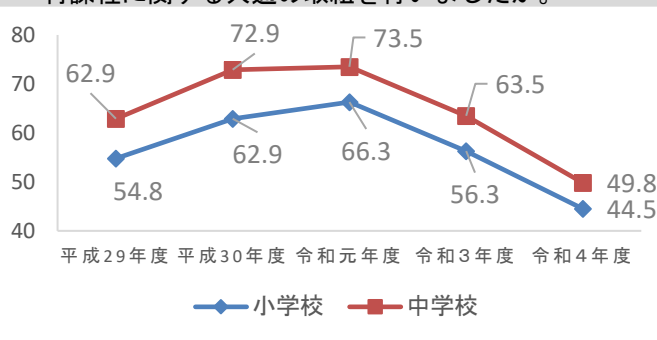
【学校質問紙】（肯定的な回答を選択した学校の割合）

	質問	小学校	中学校	自校
34	調査対象学年の児童・生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか	92.8	93.8	
37	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、児童・生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしましたか	97.9	95.9	
小69 中67	前年度までに、近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	44.5	49.8	

経年変化を見ると・・・

学校質問紙小69中67

前年度までに、近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。



- 小・中学校で重視する指導のポイントが共通している。
- コロナ禍が影響しているのか、近隣の小・中学校で、教育課程に関する共通の取組を行うことが減少傾向にある。

近隣の小・中学校で一貫した教育活動を充実させていくことが必要。

ここに注目！

神奈川県では、9年間の教育活動を通して異年齢を含めた多くの仲間たちと関わり、多様性を認め合う活動の中で、他者を尊重し、思いやる力をはぐくむことを「めざす小中一貫教育のすがた」のひとつとして掲げています。小・中学校におけるそれぞれの発達の段階に応じた「めざす子どもの姿」をそれに関わるすべての人（教職員、保護者、地域の方）が共有し、9年間を見通した教育を行うことが重要です。

（「神奈川県小中一貫教育推進ガイドブック」p.4より）

■小中一貫教育の推進について



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/shouchuikkan/suishin.html>

【参考1】ICTを活用した学習状況に関して

令和4年度の調査では、ICTを活用した学習状況についての設問が多く出題されました。その中から特徴的なものを取り上げました。

選択肢 **ほぼ毎日** **週3回以上** **週1回以上** **月1回以上** **月1回未満**

【学校質問紙】

質問			
小67-1 中65-1	児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、家庭におけるオンラインを活用した学習にどの程度活用していますか	小学校	
		中学校	
小67-2 中65-2	児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童・生徒のスタディ・ログを活用した学習状況等の確認にどの程度活用していますか	小学校	
		中学校	
小67-3 中65-3	児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童・生徒の特性・学習進度等に応じた指導にどの程度活用していますか	小学校	
		中学校	
小67-4 中65-4	児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校児童・生徒に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか	小学校	
		中学校	
小67-5 中65-5	児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、特別な支援を要する児童・生徒に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか	小学校	
		中学校	

【児童・生徒質問紙】

質問			
32	前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	小学校	30.3 33.7 22.7 9.04.2
		中学校	22.0 31.6 29.3 12.94.2
質問			
33	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）	小学校	16.1 32.8 31.7 13.65.7
		中学校	13.5 27.7 34.8 18.4 5.5
質問			
34	学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	小学校	7.8 19.5 29.5 22.8 20.2
		中学校	12.7 26.2 28.8 27.8
		4.4	
質問			
35	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	小学校	8.3 17.9 25.5 27.3 20.9
		中学校	9.6 19.8 34.1 32.0
		4.4	

- 児童・生徒は、授業中の調べる場面で、ICT機器を活用している。
- 児童・生徒は、「教員と児童・生徒」「児童・生徒同士」など、やりとりする場面で、ICT機器を活用している。
- 教員は、一人ひとりの児童・生徒の特性や実態に応じて、ICT機器を活用している。

引き続き、児童・生徒の資質・能力の育成のために、ICTを効果的に活用していくことが必要。

ここに注目！

児童・生徒質問紙「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」では、90%以上の児童・生徒が肯定的な回答をしています。今後も継続して、ICTを学習の手立てのひとつとして、個に応じたきめ細かく指導・支援していくことが必要です。



【児童・生徒質問紙】（肯定的な回答をした生徒の割合）

質問		小学校	中学校	自校
36	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	94.6	93.4	

ICT 活用の充実・改善のヒント

～「ICT を活用した学びづくりのための手引き(小・中学校)」より～

松田町

松田町では、全学年、全教科でICTを活用した授業を実施しています。授業の目的に応じて、1人1台のタブレット端末をはじめ、電子黒板やプロジェクター、デジタル教科書などのICT機器を活用しています。

書いたり消したり、表示を大きくしたり小さくしたりすることが、簡単にできるタブレット端末であるため、児童・生徒の活動は、以前と比べて活発になっています。また、動画は手元で繰り返し視聴することができるため、児童・生徒は個々のペースで学習を進めています。さらに、アンケートや授業の振り返り等にタブレット端末を活用することもあるので、アンケート用紙などの紛失もありません。現在、家庭学習での積極的な活用も進めているところです。

ICTを活用した取組には、「自分のペースに合わせて学習できるのがよい」などの肯定的な反応が見られます。一方で、小学校の保護者からは、「担任によってICT活用の差が出ないようにしてほしい」「メディアリテラシーについて指導してほしい」という要望があります。

これらの実践を活かして、今後は、反転学習を進めていきたいと考えています。例えば、知識・技能に係る学習は家庭で行い、学校では思考力や判断力を高める学習に時間をかけるようにすることを目指しています。また、定期テストの過去問題をクラウドに保存し、生徒が家庭で学習し、学校ではその内容について考える時間とすることや、教員が作成した動画を視聴して児童・生徒が家庭で学習し、学校ではその内容について思考力や判断力を高める授業の実践なども検討しています。

教員のICT活用能力や指導力等の向上を図るために、町内の小・中学校教員を対象としたICT研修を、年間6回行っています。研修の内容は、指導主事や業者による、町が利用しているソフトウェアの使い方や、対面授業とオンライン授業のハイブリッドによる取組を目指した活用等についてです。また、町内の小・中学校情報教育担当者会議で、学校における取組み状況の確認も行っています。



松田町教育委員会ではICTを活用するため「オンライン学習マニュアル」を作成しています。

主な内容

- 0 はじめに
- 1 ポジティブ・シンキングを
- 2 オンライン学習とは
- 3 オンライン学習で使うアプリケーション
- 4 オンライン学習の種類
- 5 オンライン学習を始める前に準備する
- 6 インターネット環境
- 7 学習へのアクセス
- 8 オンライン学習にあたっての心がまえ
- 9 リアルタイム学習のときの注意
- 10 著作権についての注意
- 11 家庭学習について
- 12 チェックリスト

(<https://town.matsuda.kanagawa.jp/soshiki/12/onlinemanual2020.html>)

「ICT を活用した学びづくりのための手引き (小・中学校)」 p. 35

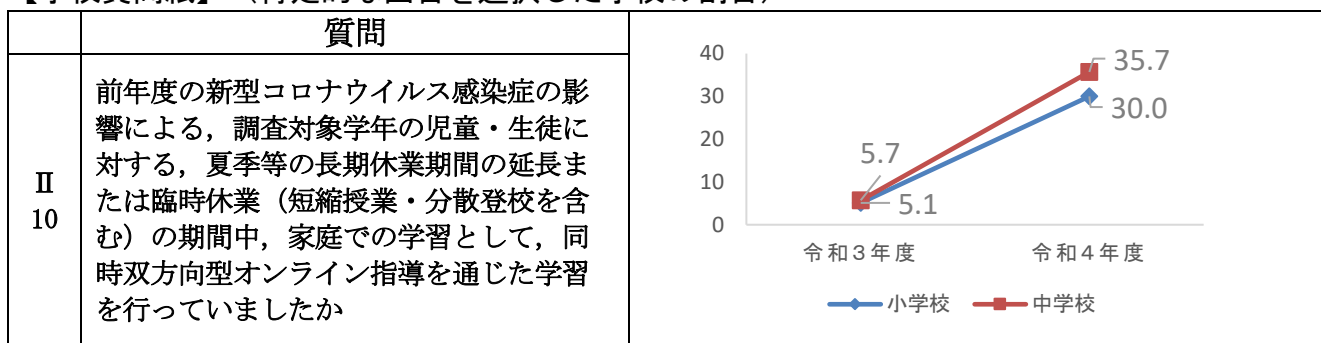
■ICT を活用した学びづくりのための手引き (小・中学校)



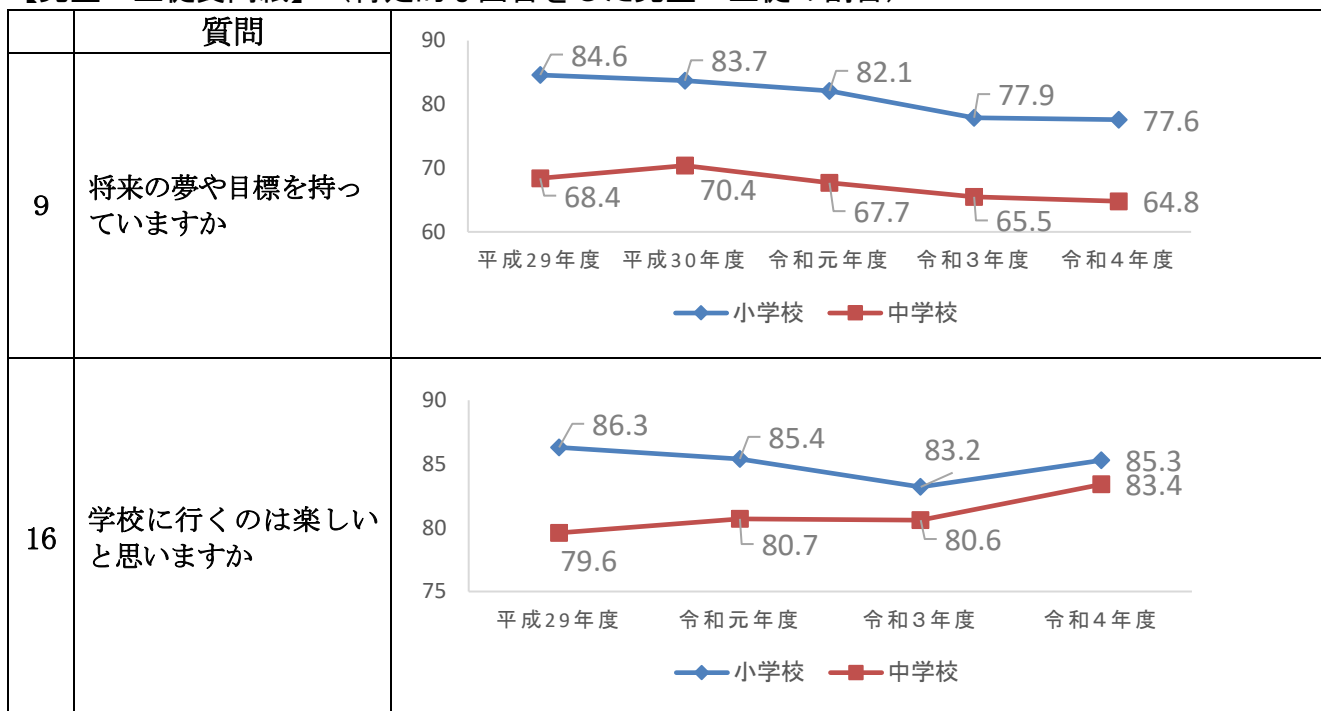
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakushushien/ict.html>

【参考2】新型コロナウイルス感染症の影響に関して

【学校質問紙】（肯定的な回答を選択した学校の割合）



【児童・生徒質問紙】（肯定的な回答をした児童・生徒の割合）

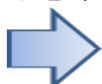


- 同時双方向型オンライン指導を通じた学習が充実しつつある。
- 「将来の夢や目標を持つこと」や「学校に行くのは楽しい」という質問に肯定的な回答は、コロナ禍により減少傾向にあったが、「学校に行くのは楽しい」は、上昇傾向にある。

自分の夢や目標の実現に向けて、学級や学校での活動などに主体的に関わり、日常生活をよりよくしようという態度を育成することが重要。

ここに注目！

児童・生徒が、自ら進んで学ぼうとする「学ぶ意欲」を高めていくために、一人ひとりの特性や、家庭環境等を十分に踏まえた上で、よい点や可能性、努力や工夫などを積極的に認めていくことが重要です。児童・生徒の学びの充実・改善に向けて、一人ひとりの「学ぶ意欲」を高めるために効果のある指導・支援について、工夫を図りましょう。



「調査結果活用の着眼点 効果のある学校の取組より」（p.20）



Ⅲ かながわの学びの充実・改善のための重点事項

児童・生徒の学ぶ意欲や自分の考えを言葉で表現する力を高めることが必要と捉えています。そのためには、学校では、すべての教員が授業改善を進めることや、小・中学校9年間を見通した取組を行っていくことが重要と考えています。そうした視点からとりまとめます。

1 子どもたちの学びに対する意欲の向上 (pp. 5、7、11、13、19、20)

- ・調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童・生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか。
〔学校質問紙 小学校…97.9% 中学校…97.6%〕
- ・自分には、よいところがあると思いますか。
〔児童・生徒質問紙 小学校…79.7% 中学校…78.3%〕
- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
〔児童・生徒質問紙 小学校…85.7% 中学校…85.7%〕
- ・国語、算数の勉強は大切だと思いますか。
〔児童・生徒質問紙 小学校国語…93.9% 中学校国語…93.4% 小学校算数…94.3%〕
- ・国語、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
〔児童・生徒質問紙 小学校国語…92.0% 中学校国語…90.5% 小学校算数…93.2%〕
- ・国語、算数・数学の勉強は好きですか。
〔児童質問紙 小学校国語…59.9% 小学校算数…63.1%〕
〔生徒質問紙 中学校国語…64.0% 中学校数学…60.1%〕

➤ 自分のよいところを自分で捉えられる児童・生徒の割合は、年々増えています。また、教員は児童・生徒を肯定的に理解しようと努めています。一方で、「国語、算数の勉強は大切」「将来、役に立つ」と感じているものの、「国語、算数・数学の勉強が好き」と感じている児童・生徒の割合は60%程度にとどまっています。学校は、日々の授業改善に、さらに取り組み、児童・生徒の学習への意欲を高めていくことが大切です。

 **学びの充実・改善のヒント 「1 各小・中学校での事例」 (pp.31-32)**

2 自分の考えを文章等で表現する力の向上 (pp. 21-22)

- ・調査対象学年の児童・生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか。
〔学校質問紙 小学校…73.8% 中学校…85.7%〕
- ・前学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
〔児童・生徒質問紙 小学校…67.6% 中学校…70.7%〕
- ・教科調査問題
〔国語 小学校3二 35.5%〕 文章に対する感想や意見を伝え合い、文章のよさを記述する設問
〔算数 小学校2(4) 49.2%〕 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する設問
〔理科 中学校5(3) 43.4%〕 実験の考察の妥当性を高めるための方法を記述する設問

➤ 自分の考えを発表する授業（言語活動）が、年々工夫されています。しかし、各教科調査問題の正答率を見ると、自分の考えを文章等で表現する学習を充実させていくことが必要です。

 **学びの充実・改善のヒント 「2 各小・中学校での事例」 (pp.33-35)**

「意欲の向上」「自分の考えを文章等で表現する力の向上」のために、次の2点が必要

3 校内研修の充実 (p. 23)

- ・児童・生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。
[学校質問紙 小学校…85.0% 中学校…85.8%]
- ・授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか。
[学校質問紙 小学校…95.9% 中学校…86.2%]
- ・調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしましたか。
[学校質問紙 小学校…86.0% 中学校…90.0%]
- ・令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。
[学校質問紙 小学校…84.8% 中学校…81.9%]

➤小・中学校ともに、授業研究や事例研究等、実践的な研修が組織的かつ計画的に行われています。校内研修の意義と重要性を理解し、今後も、「児童・生徒の資質・能力の育成」の観点から一層充実させることが大切です。

➡ **学びの充実・改善のヒント 「3 各小・中学校の事例」 (pp.36-37)**

4 小・中一貫教育の推進 (p. 24)

- ・調査対象学年の児童・生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級会（活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか。
[学校質問紙 小学校…92.8% 中学校…93.8%]
- ・調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、児童・生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしましたか。
[学校質問紙 小学校…97.9% 中学校…95.9%]
- ・前年度までに、近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。
[学校質問紙 小学校…44.5% 中学校…49.8%]

➤小・中学校ともに、「互いの意見のよさを生かして合意形成ができる」「学習したことの意義や価値を実感できる」など、小・中学校で重視する指導のポイントが共通しています。しかし、近隣の小・中学校との教育課程に関する共通の取組は減少傾向にあり、児童・生徒の資質・能力を育成するために、9年間で一貫した教育活動を充実させていくことが必要です。

➡ **学びの充実・改善のヒント 「4 各小・中学校の事例」 (p.38)**

IV 学びの充実・改善のヒント

「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」の各項目を踏まえ、「学びの充実・改善のヒント」として取組事例をとりまとめ、示しています。

1 子どもたちの学びに対する意欲の向上

(1)子どもの活躍できる場면을意図的につくり、見取り、評価する事例



先生の学校では、どのような工夫をしたり、意識をしたりしていますか？

私の学校では、子どもが達成感や自己肯定感を感じることができるよう、学校生活のあらゆる場面で、一人ひとりに活躍できるような機会や場면을意図的につくり、見取りと評価を丁寧に繰り返しています。



見取りや評価を丁寧に繰り返すときに心がけていることはありますか？

子どものがんばりや友達への言葉がけなどに対して、できるだけその場でタイミングよく声をかけて認めることを教職員で共通理解し、取り組んでいます。例えば、子どもが探求する場面では、つまずきそうなところを予測しておき、そのつまずきを試行錯誤しながら取り組んでいるときには、調べ方、探し方のよいところをその場でほめるようにしています。前向きな評価をすることで、子ども同士も認め合い、安心して学校生活を過ごすことができる、あたたかい雰囲気をつくることにつながっていると考えています。



(2)「教科を好きになる授業づくり」についての事例



教科を好きになるために工夫していることはありますか？

教科を好きになるためには、「わかる」「できる」授業を心がけることが大切だと考えています。授業では、インクルーシブ教育の視点を取り入れ、全ての子どもが楽しく、わかる、できるようにする工夫をしています。その一つの取組として、4色マグネット（青…自力で解決できる、黄…何とか頑張れそう、赤…難しい、緑…質問）を机に置き、子どもの学習への取組状況や理解の様子を教員に伝えられるようにしています。



「分からない」と自分からなかなか伝えられない子どもも、この4色マグネットを使って自分の状況を教員に伝えているんですね。

教員はマグネットの色の状況を見て、クラスの子どもの学習状況を把握したり、支援を行ったりしています。例えば、赤マグネットが多ければ、全体に再度説明をしたり、発問を変えたりしています。また、青マグネットが多ければ、赤マグネットや緑マグネットを置いている子どもを中心に支援を行っています。マグネットの色は途中で変えてもよいので、子ども自身が自分の学びをメタ認知することにもつながっています。



(3)すべての子どもが安心して自分の考えを発言できる手立ての事例



私の学校では、授業改善が子どもの自己肯定感を高めることにつながると考えています。

どのようにして授業改善に取り組んでいるのですか？

元校長先生に教育アドバイザーとして学校に来ていただき、一貫性をもって、授業改善に取り組んでいます。



どのような授業改善に取り組んでいますか？

話し合い活動の中で、子ども同士が受容と称賛を繰り返して行えるようにし、子どもが安心して自分の考えを発言できるような授業づくりを行っています。教員全員で、挙手をするときの「同じです」「付け足しです」等を表す「ハンドサイン」や、子ども同士の「相互指名」、「聴き方や発言の仕方」の例を提示するなどの手立てを行い、学校全体で粘り強く取り組んでいます。この取組が子どもにとって安心できる話し合い活動につながり、自己肯定感を高めていると考えています。



(4)子どもの「学ぶ意欲」が高まる学習環境づくりの事例



子どもの「学ぶ意欲」を高めるためにどのような工夫をしていますか？

私の学校では、子どもが授業を楽しみと思えることを大切にして「学ぶ意欲」を高めています。



具体的にはどのような工夫ですか？

例えば、最近のスポーツニュースが書かれた新聞記事2紙を読み比べるなど、実生活に関係している「取り組んでみようかな」と思える課題を提示したり、ICTを活用した、個に応じた教材を準備したりするようにしています。

そのような提示や準備は、子どもの「学ぶ意欲」の向上につながると考えています。また、「思い合い、学び合い」を合言葉として活動しながら、「あたたかい話し方、やさしい聴き方」の例を各教室に掲示して、子ども同士の話し合いを大事にしています。互いに認め合う関係性を築くことは、「学ぶ意欲」の向上につながると考えます。他にも、ピクトグラム、取り組む時間のわかるタイマーなどを活用し、学習環境づくりを通して「学ぶ意欲」を高めるようにしています。



2 自分の考えを文章等で表現する力の向上

(1)国語で身に付けた表現力を他教科で活用する事例



子どもが、自分の考えを表現する力をつけるために、どのような工夫をしていますか？

私の学校では、国語の授業で身に付けた力を、教科を横断した学びの場面で活用しています。



どのような学びの場面で活用するのですか？

例えば、国語で学んだ「手紙の書き方」を活用して、生活科や総合的な学習の時間でお世話になった方への「お礼状」を書くなど、実用的に使うことを通して、目的や相手を考えて言葉を使う場面を設定しています。



(2)自分の言葉でまとめる取組の事例



子どもが、自分の言葉で考えをまとめる力をつけるために、どのような工夫をしていますか？

考えるための時間を十分に設けることや、「考えるための技法[※]」を活用することが必要だと考えています。例えば、ウェビングなどを用いて、思考を可視化するようにしています。比較する、分類する、関連付ける、順序付けるなど考える際の技法を使い、自分の考えを整理できる時間を大切にしています。

※考えるための技法…学習指導要領解説 総合的な学習の時間編
(小学校 pp. 82～86 中学校 pp. 79～83)



具体的には、どのように授業を行っているのですか？

【理科】の「予想」の場面では、実験に取り組む前に、実験にあたっての予想や計画を考える時間を設け、ワークシートで可視化するようにしています。これにより、子どもが見通しをもち、より主体的に実験に取り組むことができるようになったと感じています。また、実験が思うようにならなかった場合も、もう一度実験の計画や方法の見直しをさせ、何が原因だったのかを考えさせるようにしています。



実験の考察では、どのようなことを大切にしていますか？

実験前や実験中に時間を取って、考えたことについて改めて振り返らせると同時に、実験の結果を「考えるための技法」を用いて、思考のまとめをさせます。何を確かめるための実験だったのか、実験によって何が分かったのかなどを、他者と共有できるように文章等で説明させます。相手に伝わるようなまとめ方を工夫していく中で、徐々に自分の言葉で自分の考えを形成できると考えます。



(3)自分の考えを文章で表現する事例

子どもが自分の考えを文章で表現できるようにするために、どのような工夫をしていますか？



私の学校では、まず、子どもの語彙を豊かにすることを意識しています。その上で、自分の考えを表現する活動を意図的に増やしています。

どうやって語彙を豊かにするのですか？

様々な教科の学習の中で、分からない言葉が出てきたときはすぐに辞書で調べ、
それを日常的に行うとともに、自分の「語彙手帳」に調べた言葉を書いたり、
同じ意味の言葉を「語彙手帳」に集め、他の教科でも活用するようにしています。
また、読書活動も推進しており、市の図書館の配本サービスを活用したり、
家庭学習の中に読書を位置付けて習慣化させたりしています。



国語の授業ではどのようなことを心がけていますか？

【国語】では、自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫する活動を取り入れた授業づくりを行っています。そのために、何をどのように書くのか、見通しをもたせ、書くことを通して身に付けさせたい資質・能力を子どもに分かる言葉で示しています。子どもの実態に合わせて、書き出しや例文、型を示すなどの指導、支援もしています。考えの形成については、例えば、一人で考えるだけではなく、学習課題について人と相談したくなったタイミングで、ペアやグループで話し合うことを通して、考えを形成しています。そして、書いた文章について推敲する時間も計画しておきます。推敲する際にも、例えば、構成や展開、因果関係などの自分の文章を推敲するポイントを示しています。



算数の授業ではどうですか？

【算数】では、考えを表現し、伝え合う活動を意図的に設けています。図、言葉、式などを用いて考えたり、文章で表現したりするなどの学習活動を積極的に取り入れています。自分の考えを伝えるだけではなく、友達考えと比較して新たな考えを導き出したり、友達考えを自分の言葉で説明させています。考えを伝える場面では、例えば、用語や記号を使って、根拠や筋道を明確にしながら説明することを意識させています。



算数における、自分の考えを表現する学習で、具体的に心がけていることはどのようなことですか？

日常生活に即した学習課題を設定するようにしています。長方形の美しさを考える学習課題では、身近にあるテレビやノート、机など美しいと思う長方形の辺の長さを調べ、子ども同士で共有させました。その後、短い辺の長さに対する長い辺の長さの割合についての共通点等を見出し、自分の考えを図やグラフ、記号等を用いながら、自分の言葉で文章等にまとめる学習を行いました。まとめた後は、子ども同士で再び共有し、お互いの感想を言い合いました。



(4)自分の考えがうまく伝わるように文章や話の組立てを工夫している事例

発表したり、書いたりする言語活動はしているのですが、どうしたら、子どもの考えがさらにうまく表現できるようになりますか？



私の学校では、ICTを活用して話の構成を考えさせています。文書作成ソフトを使うと、文を書き加えたりコピーしたりすることが簡単にできます。そのよさを生かしています。

例えば、発表や作文などの学習では、自分がいちばん伝えたいことをどうしたらうまく相手に届くかを考えさせています。自分のいちばん伝えたいことを話や文章のはじめにもってくるか、それとも、最後にもってくるのか。その構成を考える過程で、自分の伝えたいことがよりはっきりしてきます。また、自分の伝えたいことがより明確になる過程で、一文の長さに自分で気づいたり、分かりにくい表現に気づいたりします。



なるほど。文書作成ソフトは、訂正するとき書き直しがしやすいですね。



そうです。文のまとまりをコピーしたり、文に言葉を付け加えたり、削除したりすることが、短時間で行えるので、発表の構成メモや作文を書く時には、有効だと思います。



3 校内研修の充実

(1) 学習評価について共通理解していくための研修事例



学習評価の校内研修は、どのような取組を行っていますか？

まず、年度はじめに学習評価に関する研修会を行っています。その際、学習指導案や授業の様子を撮影した映像をもとにして、具体的な学習指導及び評価の場面について、研修を行っています。教員全員で議論しながら、指導と評価について共通理解を図っています。

さらに、学習評価について共通理解を深めるために、研修会を設定したり、職員会議等を利用したりして、他教科でも生かせそうな取組を紹介する時間を設けるようにしています。



実際の学習指導では、どのように取り組んでいますか？

学習指導については、全教員が、年度内で1人1回以上必ず研究授業を行います。参観では、一人の子どもの取組を複数の教員で評価し、授業後には、学習評価を中心にして全教員で協議をします。「指導と評価の一体化」の観点から、校内研修をするように努めています。



(2) 「話す・聞く」力を身に付けることに重点をおいた研修事例



どのような取組を行っていますか？

「話す・聞く」力の育成を校内研究の重点事項に位置づけています。1学期には全教員が国語の研究授業を行いました。研究会等でその成果と課題を踏まえ、2学期は他教科の授業に広げて実践をしています。例えば、今年度は、1学期の課題として、「話の中心を明確にして話す」「話の中心を捉えながら聞く」が挙げられました。事柄、理由、事例の順序を意識して、2学期は学習しています。



話し合う活動についてはどのようなことを意識させていますか？

自分と相手の考えとの共通点・相違点を意識させています。その際、まずは自分の考えたことや解決の道すじをノートに整理（P.33）した後、話し合う活動を行っています。相手の考えを聞きながら、自分の考えを広げたり、まとめたりするようにしています。



授業以外にも「話す・聞く」力の育成に取り組んでいることはありますか？

例えば、朝の時間を利用してミニ討論会やミニスピーチを行う等、様々な場面で話す活動を取り入れています。話し合い活動において、丁寧な話し方や聴き方を繰り返し指導することで、あたたかい雰囲気、お互いを認め合い、失敗を気持ちよく受け入れられる環境（支持的風土）を作ることができています。



(3)全国学力・学習状況調査の結果を活用した研修事例



全国学力・学習状況調査の結果を、どのように活用していますか？

まず、調査問題や質問紙の内容項目の確認・共有から始めています。調査対象学年の担任だけではなく、全教職員で共有したのちに、協議を行い、日頃の教育活動に生かしています。今年度は、いくつか挙げた課題の一つに、一定の長さのある文章を読む習慣を身につけるとい課題が挙げられました。そのため、全教職員で、日常の授業に新聞を取り入れて、教育活動を行おうと共通理解を図りました。



結果は、どのように共有していますか？

調査問題の解答や質問紙の回答それぞれの解答（回答）率について、全国平均や県平均との差を見ながら自校の子どもの強みや課題を共有します。その際、割合で示される解答（回答）率を「人数」に直すことで、「クラスの中で、このくらいの人数は、このように考えているかもしれない」ということを話しながら結果を共有しています。



共有したことを日常の教育活動に生かしているのですか？

はい。日頃の授業改善につなげるようにしています。分析を通した自校の子どもの強みや課題を全教職員で共有しているので、学校全体で課題解決に向けた手立てを考え、実践することができています。今年度は、長い文章を読むことに加えて、無回答率の結果を踏まえて、子どもが、安心感をもって表現できるようにしています。また、考えをもち、粘り強く取り組めるよう、日頃から意識して教育活動を行うようにしています。校内で課題を共有することで、職員室では、教員同士で授業改善に関する会話をしていることがよくあります。



4 小・中一貫教育の推進

(1) 全国学力・学習状況調査の結果を小・中学校が協働して分析する事例



全国学力・学習状況調査の結果を小・中学校が協働して、どのように分析しているのですか？

全国学力・学習状況調査の結果分析を行うために、小・中学校の教員が協働して、検証委員会を設置しています。

小・中で協働して結果を分析することで、自校だけではなく、小学校と中学校それぞれの課題が明確になり、それぞれの課題を共有することができます。9年間を見通して、児童・生徒に必要な力をつけていくために、これからお互いに連携して、どのような取組ができるのかを共有・協議しています。



(2) 指導のポイントを共有した連携の事例



小・中学校の連続性を意識した取組はどのようなものですか？

「落ち着いたある授業」「学び合う授業」「確かな学びのある授業」を学びの大きな柱としています。コロナ禍においても、連携した取組を継続できるように小・中学校をオンラインでつなぎ、打合せを行いました。



校内研究等の取組はありますか？

校内研究における授業の相互参観や幼小中合同協議会を行っています。児童・生徒の学習や学校生活の様子について、協議、情報交換等を行っています。



そのような取組は、授業づくり等にどのように生かされていますか？

小・中学校の教員が、お互いについて理解する機会として大変貴重な時間となっており、学びの連続性を意識した授業づくりにもつながっています。そして、小・中学校の教員が、子ども一人ひとりのよさについて話し合うことで、一人ひとりの成長を共有して喜べる人たちが増えることにもつながっています。



<参考情報>

神奈川県教育委員会の主な取組等 参考URL

各学校において、児童・生徒にとっての豊かな学びを実現するために、参考となる各種資料を掲載しています。

■全国学力・学習状況調査の結果について

県教育委員会が分析し公表した本県の調査結果をホームページに掲載した。また、各市町村教育委員会がホームページに公表した調査結果へのリンクを表示した。



<全国学力・学習状況調査の結果について>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakujo/shichousonkekka.html>

■国立教育政策研究所「授業アイデア例」の活用（H21～R3）

国立教育政策研究所は、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示すものとして「授業アイデア例」を作成し、学校や教育委員会などに配布するとともに、ホームページに掲載している。



<国立教育政策研究所 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」>

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

■学校運営・教育指導の重点

本県の教育の総合的な指針である「かながわ教育ビジョン」に基づき、めざすべき人間像「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会と関わる力」の育成に向け、各学校において、重点的に取り組む事項を整理した。



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakkounei/juten.html>

■学習評価

学習指導要領に基づき、各学校がカリキュラム・マネジメントを進めていく中で、教育活動の充実・改善のために、より信頼性・妥当性のある学習評価にしていくことができるよう、学習評価資料集、授業づくりの道すじ、児童・生徒、保護者向け学習評価リーフレット、活用ガイドを作成した。



<カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価 学習評価資料（小学校、中学校）>

<学習評価を踏まえた授業づくりの道すじ>

<児童・生徒、保護者向け学習評価リーフレット>

<「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料の活用ガイド」>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6679/index.html>

■かながわ学びづくり推進地域研究委託事業（H20～）

市町村において、学習指導の成果や課題を明確にし、学力向上や学習意欲の向上、学習に関する学校や家庭、地域の役割や連携について研究する。



<必携 かながわの学びづくり>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/manabi/hikkeikanagawa.html>



<かながわ学びづくり推進地域の取組について>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/manabi/torikumi/toppupeji.html>

■かながわ学力向上シンポジウム（H19～）

学校、家庭、地域の教育力の向上に資するテーマを設定し、幅広い参加者を募り意見交換等を行うことで、学校教育への理解を図る。



＜かながわの学びづくりプラン＞

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/manabi/puran/toppu.html>

■自学自習の習慣づくりのための学習教材

全国学力・学習状況調査の結果から、特に小学校において、学習内容の基礎的・基本的な知識や技能の定着、また、家での復習や自学自習において課題があることが明らかとなった。そこで、小学校5年生が、自学自習の習慣をつくったり、国語や算数の基礎的・基本的な知識や技能を自分で身に付けたりすることができるように学習教材を作成した。



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakushushien/jigakujiishu.html>

■課題解決教材（H24～H29）

児童・生徒一人ひとりの学習課題の解決に役立てるため、神奈川県公立小・中学校学習状況調査実施後に見えてきた学習課題を解決するための練習問題やワークシートなどの教材を作成し、ホームページに掲載することで、事後指導の取組の改善を図る。



＜Let' s challenge!課題解決教材＞

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakushushien/kadaikaiketsu/gaiyou.html>

■ICTを活用した学びづくりのための手引き（小・中学校）

各小・中学校において、ICTを活用した教育活動を進めるにあたっての留意事項や具体的な活用方法などを取りまとめた「手引き」を作成した。



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakushushien/ict.html>

■キャリア教育

児童・生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるキャリア教育を推進する、小・中学校教員向けの指導資料を作成した。



＜かながわキャリア教育指導資料＞

＜かながわ版キャリアパスポート＞

＜キャリア・パスポートの効果的な引き継ぎに向けて＞

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f537614/kyariakyouiku.html>

■小中一貫教育の推進について（H27～）

義務教育9年間を通して児童・生徒の豊かな「学び」と「育ち」を育む小中一貫教育を推進する。



＜小中一貫教育の推進について＞

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/shouchuikkan/suishin.html>

■コミュニティ・スクール（H22～）

学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」に転換するための仕組みにより、地域ならではの創意工夫を生かした特色ある学校づくりを推進する。

■自己肯定感を高めるための支援プログラム（H30～）

すべての子ども・若者の未来を信じて、そして、神奈川県で生まれ、育った子ども・若者たちが、自己肯定感をもってほしいという願いのもと、「見つける→気づく→関わる」というプロセスからなるプログラムを作成した。



<自己肯定感を高めるための支援プログラム>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seitosidou/jikokouteikan.html>

■かながわ元気な学校ネットワークの推進（H23～）

産・官・学・民からの委員で構成する「かながわ元気な学校ネットワーク推進会議」（H23.8 設置）を推進母体に、すべての子どもたちを元気にし、教職員・保護者も、さらに地域の人たちも元気にするような学校づくりを推進する。



<かながわ元気な学校づくり通信「はにい」>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seitosidou/hanii.html>



<かながわ「いのちの授業」>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f417796/index.html>

■教室に行こう（H26～）

神奈川県における学校の様子を広く県民に広報し、学校の教育活動の理解を得ることを目的として、神奈川新聞教育面「教室に行こう」を掲載する。同時に、神奈川新聞のホームページ「カナロコ」にも掲載する。

県内の幼・小・中・高・特別支援学校において、教職員や子ども達が生き生きと学んでいる授業の様子を県教育委員会の指導主事が取材し、広報する。



<https://www.kanaloco.jp/tag/939>

■学級経営支援事業（H27～）

小学校における学級経営の充実に向け、経験豊かな退職教員を非常勤講師として派遣し、課題を抱える児童や学級に対し、継続的指導・支援を行い、問題行動等の未然防止を図るとともに、その成果について周知する。



<子どもが輝く学級経営につながる学級担任の指導のポイント>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/gakkyukeiei-point.html>

■その他関連資料



<インクルーシブな学校づくり Ver. 3.0>

<https://edu-ctr.pen-kanagawa.ed.jp/kankoubutu/download/r01kankoubutu.html>



<小・中学校における政治的教養を育む教育>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seijitekikyoyou/gaiyou.html>



<わたくしたちの生活と進路>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6687/watashin.html>



<手話啓発リーフレット「手話を楽しく学ぼう」>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/shuwa/refuretto.html>



<児童・生徒指導ハンドブック(小・中学校版)>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/seitosidou-handbook.html>



<神奈川県児童・生徒の問題行動等調査の結果について>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/kanamonkou.html>



<子どもの安全を守る6つの点検>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seitosidou/anzenken.html>



<いじめのない学校づくりのために～小学校・中学校・高等学校・特別支援学校
校種を越えたメッセージ～>

<https://edu-ctr.pen-kanagawa.ed.jp/kankoubutu/download/h25kankoubutu.html>



<いじめ防止対策を推進するための申し合わせ事項>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/mousiawasejikou.html>



<支援を必要とする児童・生徒の教育のために（令和3年3月版）>

<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/kenkyu/shienkyouiku.html>



<外国につながるのがある児童・生徒への指導・支援の手引き>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f420361/index.html>



<県立総合教育センターの刊行物一覧>

<https://edu-ctr.pen-kanagawa.ed.jp/kankoubutu/index.html>